

伊勢の今を伝える

ISEBITO NEWS

残暑号

第12号

# いせびとニュース

●発行 伊勢文化舎 伊勢市観光協会  
おかげ参り推進委員会  
●発行部数 10万部  
●企画・編集 伊勢文化舎  
〒516-0016 三重県伊勢市神田久志本町1474-3  
TEL (0596) 23・5166 FAX (0596) 23・5241  
E-mail otayori@isebito.com

12

## 新正宮 お白石に 映える

夏の陽にまばゆい  
新しい御正宮。  
一つ、一つ、また一つ、  
お白石は御敷地に満ちていく。  
新しい二十年へ、  
神領民の思いを籠めて――。



### 内宮御正殿の建築について

御正殿は神明造。正面3間、側面2間、切妻平入で左右対称。12本の柱は直接地面に埋める掘立式。そのうち2本の東西に立つ太い棟持柱はわずかに内側へ傾斜。屋根は萱葺で傾斜45度。棟木に檜木が10本(外宮は9本)載る。破風は屋根を貫き千木と呼ばれる。



遷宮で結ぶ人の輪心の輪  
第六十二回神宮式年遷宮

お白石を献じる旧神領民たち。撮影/溝口照正

神領民二十万人の手で

この夏、伊勢の町は「お白石持行事」にわき返っている。二十年に一度の式年遷宮の年に、神領民が新宮の御敷地にお白石を奉獻する伝統行事だ。

旧神領(伊勢市)の七十七奉獻団ほぼすべてが内宮と外宮に奉獻するとあって、七、八、九月の足かけ三カ月、週末を中心に延べ二十一日間行われる大行事である。

初日は、七月二十六日。川曳の一番手・宇治奉獻団が内宮をめざして浦田橋詰を出発。五十鈴川の流れをさかのぼり、お白石の木樽を積んだソリを曳く。川面に揃いの法被が映え、木遣り唄が朗々と響きわたった。

神域に到着すると、一人ひとりが白布にお白石を包み持ち、新宮の御敷地へ肅々と向かう。

五つの御門をくぐると、御正殿が目の前に。端正な萱葺根、つややかな丸柱は見とれるばかりだ。

古代の高床式穀倉を神の宿る宮として今日に伝える総檜の神明造である。高く天に伸びる千木、棟を支えすくと立つ東西の太い棟持柱。その簡素にして尊厳な姿は世界の名建築家たちをも感銘させずにはおかないという。

十月二日、遷御。宵闇の中に雅やかな葉の音が流れ、大神様は御列に護られ新宮へお遷りになる――。

その新しい御敷地に白石をそっと置く。これから二十年間、大神のお傍近くにこの石があるという言い知れぬ感慨の湧く瞬間である。

●問い合わせ 神宮司庁  
☎0596・24・1111

●主な内容

2・3面 内宮奉獻レポート

4面 外宮奉獻ガイド

5・6面 外宮奉獻団の見どころ

7面 お白石持のまち(二)

8面 いせびと歳時記

速報

お白石持の夏、開幕!

秋に行われる遷御に向け、地元伊勢では、新宮に敷きつめる白石を旧神領民が奉獻するお白石持行事が始まった。七月二十六日の出発式を皮切りに、二十八日までの三日間は川曳と陸曳で内宮へ。「エンヤ」と暑気も吹き飛ばす、爽やかな奉曳を繰り広げた。



五十鈴川を大きな“輪”が進む(桜が丘奉獻団)。



初日の午前7時から、各団の団長や奉獻本部の役員が集い、お白石持行事の出発式を行った。

清流・五十鈴川をエンヤ！エンヤ！

伊勢の神領民が、直接遷宮に奉仕できるお白石持行事。二十一年に一度の大祭に向け、市内の全七十奉獻団が何年もかけて準備を進めてきた。心待ちにしたお白石持の幕開けは、内宮奉獻・川曳だ。

浦田橋から約一キロを川曳

二日間の川曳には、旧内宮領の十九団が奉仕。各団、お白石の四斗樽を積んだソリを盛大に飾りつけ、揃いの法被で臨んだ。先陣を切った宇治奉獻団は、川曳団最大の約四千五百人、ソリを三台連ねての大奉曳だ。浦田橋詰を出発し、五十鈴川を遡って宇治橋下に至る約一キロで、川曳絵巻を繰り広げた。

エンヤ曳で内宮神域へ

新橋を越えてしばらくゆくと、烏帽子岩周辺の深みにさしかかる。「伊勢に生まれてよかった」とみな感慨深げだった。

日程 7月26日(金)

- 宇治 二軒茶屋 松下 江清渚連 二見浦茶屋清渚連 三津 山田原 溝口 光の街

7月27日(土)

- 中村町 楠部町 一宇田町 朝熊町 鹿海町 桜木町 桜が丘 中之町 五十鈴ヶ丘 伊勢古市・久世戸

かわびき

川曳



(取材：文二本紙)



この日のためにほぼ毎日練習して声を鍛えてきた木遣り。数百人の団員を鼓舞する(伊勢古市・久世戸奉獻団)。



お白石の積み方やソリの飾りにも各団の特徴が出る(二見浦茶屋清渚連)。

五十鈴川を曳いてきたソリを、宇治橋のたもとから内宮神苑へ一気に引き揚げるエンヤ曳(桜木町奉獻団)。



伊勢名物

赤福

本店 〒516-0025 伊勢市宇治中之切町26番地 電話 0596-22-2154(代) ファクシマール 0120-081381 http://www.akafuku.co.jp/



神久社はこの日の最終団だったが、1日の疲れを感じさせない元気な奉曳をみせた。

おかびき

# 陸曳

**日程**  
7月28日(日)

**団**  
浦田出発/  
竹ヶ鼻町  
小木町箕曲団  
神社港辰組  
馬瀬町  
下野町

古市出発/  
船江神習組  
河崎六ヶ町  
河崎南側  
河崎町旭通  
神久社

※内宮奉献の陸曳は、7/28(日)以降、8/12(月)までの週末を中心に延べ10日間行われた。

浦田から内宮までは約一キロ。二  
十年に一度のハレの日を迎え、曳  
き手も元気いっぱい。おほらい  
町は色とりどりの法被であふれ、  
この日は日曜とあって観光客も多  
く、いつにも増してにぎやかだ。  
木遣り、ワン鳴り、踊り……そ  
れぞれに町の特徴が出るが、神社  
港辰組では、道中、「初辰の水」を、  
清めの水として先頭で撒きながら  
進むという地元の習俗を取り入れ  
たユニークな奉曳を見せた。

後ろ綱には若手が中心に連なり、  
奉曳車の前後からゆっくり、ゆっ  
くりと引っ張りながら曳く。とき  
には後ろ綱で練り、背後からの力  
の強さに、車が停止するという一  
幕も。無事下り終わると、参加者

河崎町旭通奉献団の参加女性  
(50)は「親戚みんな揃って、奉献  
できてうれしい。お宮はヒノキの  
香りがして、神聖な気持ちになり  
ました」と語った。

## 奉曳車がおほらい町へ

浦田から内宮までは約一キロ。二  
十年に一度のハレの日を迎え、曳  
き手も元気いっぱい。おほらい  
町は色とりどりの法被であふれ、  
この日は日曜とあって観光客も多  
く、いつにも増してにぎやかだ。  
木遣り、ワン鳴り、踊り……そ  
れぞれに町の特徴が出るが、神社  
港辰組では、道中、「初辰の水」を、  
清めの水として先頭で撒きながら  
進むという地元の習俗を取り入れ  
たユニークな奉曳を見せた。

家の軒先が迫る街道をゆく。

最難所は、神宮司庁頒布部から  
猿田彦神社にかけて約三百メートル  
の牛谷坂だ。坂上の古市常夜灯前  
では、下り坂に備え、奉曳車の後  
ろにも二本の綱がしっかりと結わ  
えられた。前綱は女性や子ども、  
後ろ綱には若手が中心に連なり、  
奉曳車の前後からゆっくり、ゆっ  
くりと引っ張りながら曳く。とき  
には後ろ綱で練り、背後からの力  
の強さに、車が停止するという一  
幕も。無事下り終わると、参加者

その後、河崎六ヶ町、河崎南側、  
河崎町旭通と続き、この日の最終  
団・神久社奉献団がおほらい町へ  
到着したのは夕間に提灯の灯りが  
ともる十八時。宇治橋が近づくと  
短くした二本の綱を青年団が鳥居  
前まで全速力で曳き込み、この日  
一番迫力のあるエンヤ曳で、初日  
を締めくくった。

## おほらい町にワン鳴り響かせ お白石がゆく

快晴に恵まれた陸曳初日は、最  
高気温三十三度を記録し、暑く、  
長い一日となった。外宮領十団  
が浦田と古市の二カ所を出発点に、  
白石を入れた樽を奉曳車に積み込  
み、内宮・宇治橋前を目指した。

### 最大の難関・牛谷坂

もう一つの出发点・古市からは、  
旧参宮街道からおほらい町を通る  
約二・七キロのルート。朝八時に船  
江神習組が出発。市内最大級の奉  
曳車に白石樽三十六個を積み、民  
家の軒先が迫る街道をゆく。

から自然と拍手がわき起こった。  
おほらい町へ入ると綱を七百五  
十メートル延長。両側の綱を合わせ、  
道幅いっぱい右へ、左へと練る  
ようすは、さながら活力みなぎる  
龍のようだった。

大人も子どもも一  
緒になって楽しむ練  
り。全身ずぶ濡れ  
になって盛り上がる  
(宇治奉献団)。



流れが速くなる浅瀬の堰を越えて——(朝熊町奉献団)。



川曳の2日目には、初日にお白石を納めた宇治奉献団が新橋のたもとで出迎え、木遣りやお酒などで各団をもてなす(中村町奉献団)。



無事内宮神域までソリを奉曳した後、神職によるお祓いを受ける(光の街奉献団)。



お白石置き場で役員からお白石を手渡され、にっこり。



ふだん入れない新正殿の御敷地に、神領民一人ひとりが真心込めてお白石を置く。



船江町では、市内最多の6700人が参加した。(牛谷坂にて)

奉祝

# 第62回 神宮式年遷宮

東京の  
お伊勢さま



東京大神宮



# 奉曳車で、川ソリで 外宮さんへお白石運ぶ

## 外宮奉献

平成25年8月17日～9月1日

旧神領民によるお白石持行事は、つづいて外宮奉献へ――。各団が音色を競う奉曳車のワン鳴り、初々しい子ども木遣り、豪快な綱の練り、そして迫力満点のエンヤ曳……と、こちらも見どころたっぷりだ。

## 外宮領奉献団コース

伊勢っ子たちになじみの深い「外宮さん」。外宮奉献の主役を担うのは、各町自慢の奉曳車をもつ旧外宮領五十七団だ。スタート地点は県道鳥羽松阪線に近い浦口町。前日までに、お白石の樽を積んだ奉曳車がずらりとスタンバイする。一番車の出発は朝八時。二百人以上なる曳き綱をのびし、木遣り一本を合図に車が重厚なワン鳴りを上げて進みだす。午後二時まで、三十分～一時間刻みに順次出発する予定だ。

旧参宮街道へと入る左折が最初の難関。車の傍の梶子衆が、梶子綱を手練りながらゆっくりと曲がり切る、チームワークの見せ所だ。まもなく奉曳は、旧参宮街道と旧熊野街道が交差する筋向橋へ。ここで小休止し、踊りなど余興を披露する団も多い。周辺は商店街なので、見物の人は飲み物や軽食を調達しておくといいだろう。この先しばらくは直線ルート。お楽しみは、二本の綱を合わせて道幅いっぱい蛇行する「練り」。木遣り唄に合わせて曳き子た



第3日曜に軽トラ市を開催。

### 見どころ

### 周辺スポット

### 「浦之橋商店街」

綱の間で進行をリードする道中木遣りと、各団伝統の衣装を身にまとった本木遣りに大きく分けられる。各町の歌詞に耳を傾けると、町の歴史などもわかって面白い。

筋向橋から高柳通りまで東西約三百間に青果店、鮮魚店、生鮮食品店など五十店以上が並び、観光客向けの店とは違い、普段の伊勢人の生活を知ることができる。

各団が趣向を凝らした余興を準備している。伊勢音頭など伝統の踊りのほか、今風のよさこいソーラン、独特の相撲「ケン」など。筋向橋、外宮北御門前で披露する団が多い。



祖霊社にある芭蕉句碑。

コース終盤、祖霊社の敷地内にはさまざまなる石碑が建つ。「何の木の花とはしらずにほひかな(蕉の小文)」。貞享五年(一六八八年)二月四日、外宮を参拝した折に芭蕉が詠んだ句だ。

### 周辺スポット

川曳と同じ木ソリで道路を曳くが、その装飾はさまざま。定番の神鳥居、紅白幕以外にも、船のように横板をめぐらせたり、樽の積み方でその町らしさを出す団もある。

※外宮奉献の写真はすべて前回平成5年のお白石持行事のものです。



伊勢せきや本店 年中無休 伊勢市本町13-7 ☎0596-23-3141 赤福外宮前特設店 年中無休 伊勢市本町14-1 ☎0596-22-7000

伊勢市駅前から外宮への四百五十坪の参道は伊勢せきや本店や赤福外宮前特設店などの飲食店が増え、外宮まがたま池のせんぐう館の開館もあつてにぎわいを増している。



日曜定休 伊勢市八日市場町1-26 ☎0596-28-2708

伊勢っ子おなじみの丸与のパン。明治四十年創業の同店の看板商品はカタパン(二〇〇円)だ。ハレの日には配られることが多いが、当地パンで、食感は甘食に似ている。

旧内宮領、十九の川曳団は、外宮奉献も川ソリを用いて行う。伊勢の東部を流れる勢田川右岸から、小田橋を渡って旧参宮街道で外宮へ向かう約二キロを奉曳する。各団の自慢は、趣向を凝らしたソリ飾りだ。白石を詰めた樽を綱で縛り、鳥居に神、団の職を立てるのがオーソドックスな装飾だが、独創的なソリを披露する団もある。先頭をゆくのは笛や太鼓の地方を乗せた花車。ゆるやかなカーブを描く道に旧街道の面影を感じながら堂々とソリが進む。ポウーと響くのは、川曳団ならではのホラ貝の音。五十鈴川で鍛えた木遣り

御木本道路に入ってから、左手に外宮の森を見ながら、肅々と神域をめざす。

の美声も自慢の一つだ。道中、地元岡本町お白石奉献団による湯茶の接待も行われる。伊勢ゆかりの石碑が並び立つ祖霊社を過ぎ、信号を左折して御木本道路の交差点へ。二十年前にはこの

御木本道路に入ってから、左手に外宮の森を見ながら、肅々と神域をめざす。

御木本道路に入ってから、左手に外宮の森を見ながら、肅々と神域をめざす。

御木本道路に入ってから、左手に外宮の森を見ながら、肅々と神域をめざす。

奉祝 第62回神宮式年遷宮

ゆとりとやすらぎの宿

## 神宮会館

伊勢神宮崇敬会

内宮に一番近い宿・歩いて5分  
どなたでもご利用いただけます

〒516-0025 伊勢市宇治中之切町152  
TEL 0596-22-0001 FAX 0596-22-1517  
<http://www.jingukaikan.jp>

早朝参拝の  
ご案内をしております。

奉祝 第62回神宮式年遷宮

頭の深(神)呼吸に  
来ませんか

商売繁盛 職務安全・出世開運  
仕事は独創性とひらめきが大切。疲れた頭と心を癒します。

学力向上 合格祈願  
(大学・就職・資格・国家)  
現代社会は頭の時代。受験・IT社会の守護神。

心の病気 頭の病気・ケガ  
頭の神様の大きな御神助を戴いて病気回復。

頭の守護神 知恵の大神

## 頭之宮四方神社

三重県度会郡大紀町大内山  
0598-72-2316  
<http://www.koubenomiya.or.jp/>

- [松阪]よりJR線又は三重交通(南紀特急)「大内山駅」下車徒歩10分
- [伊勢]よりJR線「伊勢」からレンタカーが便利です。いずれも、およそ50分。

# 外宮奉献 外宮領奉献団 の見どころ

## 下野町奉献団

23 8月



法被の背に日輪、裾には宮川、勢田川、五十鈴川の三川が描かれている。伝統の「扇の舞」には子どもたちも参加。

## 船江神習組奉献団

23 8月



参加人数6700人、陸曳随一のマンモス団。全長7.5mの奉曳車も最大で、36個の樽の荷締めは細部にまで拘った。

## 下長屋奉曳団

24 8月



奉曳車のワン鳴りとともに、13人の青年木遣りによる意気あふれる木遣り唄が、20年に1度の奉献を盛り上げる。

## 西口町瑞穂連奉献団

25 8月



車上の樽のうち前面には交流のある西条市愛媛県との地酒樽6樽を配置。休憩時の手早く美しい網の巻き取りも見ものだ。

## 宮沼連合奉献団

25 8月



2年前の第2次お木曳で発足したフレッシュユウ。協力団の黒瀬町など周囲の力を借りながら、初めてのお白石奉献に挑む。

## 竹ヶ鼻町奉献団

23 8月



外宮陸曳のトップバッター。団の歴史は古く、飴色に輝く奉曳車は築造100年を超える。女性の和太鼓チームが華を添える。

## 馬瀬町奉献団

23 8月



「松前師」と呼ぶ木遣りは、采ではなく幣を持つ。奉曳の道中は松前の受けに合わせて、少しずつゆっくり曳くのが伝統。

## 神社港辰組奉献団

23 8月



1800人の大奉曳。長く太い綱をダイナミックに練る。氏神である御食神社内「辰の井」の水を樽を使って奉曳中に散布する。

## 小木町箕曲団

23 8月



木遣り子が掲げる采には、剣先型の紙垂が108枚。奉曳車は小ぶりだが、小ぶりなだけに少し高いワン鳴りが特徴だ。

## 河崎六ヶ町奉献団

23 8月



神や提灯などで飾られた奉曳車に商人町の風格が漂う。北御門では、2本の綱を中心に合わせ担いで走る、「一本曳」を披露。

## 河崎町旭通奉献団

23 8月



飴色に光る年季の入った奉曳車は、直杖によるホラ貝のようなワン鳴りを奏でる。少数精鋭の団結力をもって奉献に臨む。

## 河崎南側奉献団

23 8月



世帯数は少ないが、毎年行われる河辺七種神社の天王祭など、日ごろから交流機会が多いためその結束は固い。

## 神久社奉献団

23 8月



綱の長さは300m。元気な若者が多く、法被の背に躍動感ある龍を背負った青年木遣り衆が奉曳を引っ張る。

## 川端町天漁人奉献団

24 8月



本木遣り子が持つ御幣、道中木遣り子が采で地面を叩く所作がユニーク。川端音頭に合わせた練りも。

## 小俣町奉献団

24 8月



離宮院太鼓を先頭に、2000人が綱を曳く。青年、女性、子ども合わせて80人が揃いの衣装を着けた大木遣り衆にも注目。

## 新開梅栄団

24 8月



区内に咲く臥竜梅にちなみ、法被や奉曳車の提灯など、あちこちに梅があしらわれている。外宮曳ぎ込みはエンヤ曳。

## 王中島奉献団

24 8月



「御園」と団員が口を揃える、威勢のいい木遣り衆が奉曳をリードする。休憩時間には老若男女が楽しむ御園音頭も。

## 上長屋奉献団

24 8月



自慢は、地区の地名を盛り込んだ歌詞を独特の節回しで唄い上げる木遣りと、奉献青年団による勢いのあるエンヤ曳。

## 高向奉献団

24 8月



車には今回の奉献で最高の50個の白石樽を搭載。御頭、神事の伝統を守る共盛団を中心としたチームワークが光る。

## 出雲町誠義会

25 8月



車輪の心棒と椀木の間に秘伝の油を注ぐことで鳴る、甲高いワン鳴りが特徴。長い1本の綱を使った機能的な樽縛りにも注目。

## 徳川山お白石奉献団

25 8月



「時間通りに楽しく」がモットー。帰り車では、飾り提灯を付けた奉曳車が地元まで約200mの坂道を一気に上る。

## 中島豊流団

25 8月



文久2年製の奉曳車の、直杖が奏でるワン鳴り。車輪の町名の揮毫はかつて中島に住まいした書家・江川閑雲による。

## 栗友会辻久留奉献団

25 8月



賑やかな奉曳を先導するのは、太鼓部と45人による踊り連「栗の会」の女性たち。多くの町民が一家総出で奉献に臨む。

## 二俣町白石奉献団

25 8月



震災復興を願い、車上に東北酒造メーカーの化粧樽を搭載。また今回、奉曳しながら唄う「道唄」を60年ぶりに復活した。

## 宮川町奉献団

25 8月



余興にも力を入れる。踊りは伊勢音頭をベースに独自の作曲から手がけ、現代風アレンジで若者たちを呼び込む。

## 京町親友会

25 8月



他にはない大樽1個積みみ特徴。直径2.1m、高さ2.5mの樽に昨秋に宮川で拾い集めたお白石を収め外宮をめざす。

## 小川町勢勇団

25 8月



お木曳で棟持柱を曳く伝統団で、エンヤ曳は行わず爾々と奉曳する。北御門では車上の本木遣り子が納めの木遣りを披露。

## 一色町白石奉献団

30 8月



息の合った華麗なエンヤ曳が自慢。また、出発時と曳き入れ前に謡う「高砂」などの能謡曲が奉祝ムードを盛り上げる。

## 通町奉献団

30 8月



奉曳車の装飾がユニーク。絵符には町名の「通」の変体仮名「登保里」、中央には、虎布と呼ばれる魔よけの幟旗を掲げる。

祝 第62回神宮式年遷宮

お多福とともに  
岩戸屋は  
今も昔も内宮前



金時生姜を使った  
岩戸屋の生姜糖  
鮮やかな赤色をした  
金時生姜は、香りと  
辛味が大変強い分、  
美肌効果や花粉症  
を抑える効果がある  
といわれています。

伊勢・内宮前おはらい町  
**岩戸屋**  
TEL 0596-23-3188 FAX 28-1322

PEARL BOUTIQUE  
**珠魔**  
TEL 0596-23-6750

伊勢の上流&洋装  
おみやげ  
**百祥**  
TEL 0596-23-3236

<http://www.iwatoya.co.jp>



伊勢内宮前  
**おかげ横丁**  
電話 0596(23)8838  
〒516-8558 三重県伊勢市宇治中切町52  
<http://www.okageyokochi.co.jp/>

遠い昔、そのまた昔から  
語り継がれてきた、日本の神話。  
「おかげ座 神話の館」は  
天照大神が祀られる伊勢の里の、  
これまでになかった  
本格的な神話体験館です。

# おかげ座 神話の館

伊勢内宮前 おかげ横丁に誕生

田尻町奉献団

30 8月

華美なことはせず、古の奉仕のスタイルに忠実にお白石を奉獻する。低音で重量感のあるワン鳴りが伝統。



黒瀬町橋栄社お白石奉献団

30 8月

本木遣りと木遣り舞、伝統と革新の対比。余興の木遣り舞は本木遣りをアップテンポに編曲して振付を加えたものだ。



常磐第一奉献団

30 8月

今回絵符を新調した奉曳車、白法被の曳き子たちの一体感ある奉曳、そして力強い綱練りのすべてに、神領民の心意気みなぎる。



常磐表町奉献団(筋向橋連)

30 8月

市内一小さいという奉曳車は、大正時代に子ども用として造られたもの。本拠地である筋向橋前では踊りを披露する。



浦口町奉献団

30 8月

外宮奉獻の出発地である浦口町。余興では、伝統の木遣り唄9曲でお白石持の一日を表現する。見せる木遣り唄も。



宮町お白石奉献団

30 8月

まず目を引くのが先導車に乗り込んだ三味線、笛、太鼓、鐘などの地方による囃子。伝統の生演奏が奉曳に華を添える。



常磐仲町奉献団

30 8月

奉曳人数300人は市内でも最少規模。小粒でも気合は十分で、綱の間で伝統のボタン采を振る木遣り衆の士気は高い。



常磐西世古奉献団

30 8月

本木遣り、道中木遣り、口説き、木遣りくずしなど多種多様な木遣りで道唄を歌いながら曳く。



荘奉献団

31 8月

明治36年製作の格調高い奉曳車と、団長・副団長の陣笠、陣羽織姿、子ども木遣りの素襖、侍烏帽子姿という伝統の衣装。



今一色奉献団

31 8月

迫力満点のエンヤ曳。外宮北御門交差点の手前から、カーブもスピードを落とすことなく神域まで一気に駆け抜ける。



二見町西奉献団

31 8月

道中何度か車輪を外して心棒を調整しながら、高く澄んだワン鳴りを響かせて走る。神域への曳き込みはエンヤ曳で。



一志町奉献団

31 8月

築造1000年以上の古い奉曳車。歴史ある絵符の「一志久保町」は旧町名だ。エンヤ曳は行わず、肅々とお白石を曳く。



八日市場町篤友会

31 8月

車上には、かつて八日市場に住んでいた御師・福島みさき大夫が根付師・正直に作らせたという猿田彦大神像が載せられている。



本町白石奉献団

31 8月

外宮の門前町。奉曳車や法被の背の日の丸は、江戸時代の御師・春木大夫にちなむ。24個の樽の美しい荷締めにも注目。



曾祢町奉献団

31 8月

伊勢の旧花街らしく、大きな先導車に乗り込む道唄連、休憩時に元気づける踊り連と太鼓が、奉曳にはと華を添える。



大世古町奉献団

31 8月

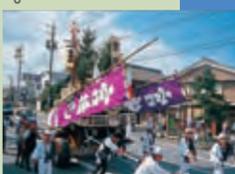
奉曳車の上に風格ある櫓が設えられ、伝統のボタン采を手にした子ども木遣り子が乗り込む。北御門ではエンヤ曳を予定。



宮後お白石奉献団

31 8月

2台の奉曳車による、二連曳と、創作なぶたが自慢。全長約66mの大作なぶた「風神・雷神」は24日の上せ車で披露する。



一之木町須原奉献団

31 8月

激しい練りと豪速のエンヤ曳。1本の綱で頑丈かつ美しく仕上げる樽縛りもピカイチだ。神域内での荷解きは「7分」。



前山町養命団

1 9月

史上初めて女性木遣りを組織した。また女性部によるよさこいソーラン(小学生)、正調伊勢音頭、和太鼓が奉曳の花形に。



豊栄会

1 9月

伝統を重んじ、肅々と一体感ある奉曳。7年前のお木曳の際、青年団メンバーが考案、制作した上せ車の大提灯も自慢。



北浜連合奉献団

1 9月

今回遷宮から参加。奉曳車に白石の樽16個を積み、その上に地区の稲作で伝統的に使われてきた、田船を3艘並べる。



大湊奉献団

1 9月

5000人による勇壮な奉曳。海の玄関口・大湊にはかつて貯木場で奉仕した人も多く、4段積みみの樽縛りに職人技が冴える。



倭町奉献団

1 9月

倭姫命の御陵がある町。車上に設えた木遣り台には、神代をイメージさせる衣装に身を包んだ本木遣り子2人が乗る。



吹上町お白石奉献団

1 9月

余興で観衆を魅了する「吹上甚句」は、相撲甚句を起源とし200年の歴史をもつ。また、威勢のよい木遣りも自慢の一つ。



宮崎奉献団

1 9月

法被には豊宮崎文庫のお屋根桜をデザイン。雅やかな踊り連、元気づけの綱練りなど、満開の桜が道中を彩る。



岡本町お白石奉献団

1 9月

奉曳車の木遣り舞台で、袴に金扇を持った子ども木遣り子が本木遣りを唄う。曳き子の法被の背を彩る紅葉は町印だ。



尾上町永昌社奉献団

1 9月

昭和製作の奉曳車のワン鳴りを誇る。旧参宮街道沿いの古い町で、若者は少ないが団結力を活かした奉獻をめざす。



岩淵町白石奉献団

1 9月

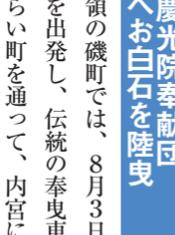
今回の大トリ、北御門での躍動感あるエンヤ曳が見どころだ。マイクを使わない本木遣りの勇壮な唄声を合図に曳き入れる。



磯町慶光院奉献団  
内宮へお白石を陸曳

1 9月

旧寺領の磯町では、8月3日、浦田町を出発し、伝統の奉曳車でおはらい町を通って、内宮にお白石を奉獻した。戦国時代、遷宮復興に寄与した慶光院ゆかりの団で、当日は磯町民とともに、全国から慶光院一族などが参加し、約2500人が奉獻。賑やかに綱を曳いた。



※各団の写真は磯町慶光院奉獻団を除いて、20年前のお白石持行事と、7年前に行われたお木曳のときのものを適宜使用しました。

facebook

伊勢のお白石持



伊勢文化舎によるフェイスブックページです。お白石持行事に関するタイムリーな情報(画像・コメント)を随時公開しています。

伊勢文化舎 URL http://www.isebito.com/ Eメール otayori@isebito.com

奉祝 第62回神宮式年遷宮



伊勢おはらい町 豆腐庵山中 伊勢市宇治中之切町95番地 電話 0596-23-5558 定休日 木曜



美しい五十鈴川の水を生かした豆腐を作りたい 「和妙」にぎたえ 水の良さを最大限ひきたせるよう作りあげた豆腐です。 うの花どーなつ 90円 あんどーなつ 130円



おとろふソフト 「和妙」を50%以上含んだとろふのソフトクリームです。 コーン 270円 うの花どーなつ 豆乳とおからを練り込んだので、ヘルシードーナツです。

# お白石持のまち

4回シリーズ  
第3回

お白石持は、伊勢の各町の歴史や気風を反映しながら、今日まで受け継がれてきた。代表的なお白石持の町を訪ね、奉獻のあらしや町の見どころ、味どころなどを紹介する。



伊勢湾に向かう宇治山田港の棧橋。

## その5 神社港

かみやしろこ

神社港辰組奉獻団

## 倭姫命にゆかりある伊勢の海の玄関口



和船「みずき」は、神社港を発着港として、かつての運河・勢田川を航行し、二軒茶屋、河崎の川の駅を結ぶ。



団長の中村さん。海の駅では、神社の情報を伝えるほか、まちのボランティアガイドの派遣も行う。

初辰の水を載せた台車は、先頭でちびっこたちが曳いて運ぶ。(7月28日 内宮奉獻)



内宮奉獻 7月28日(日)  
外宮奉獻 8月23日(金)



のひとつ、御食神社を氏神とする。「倭姫命世紀」によると、驚取老翁が倭姫命に清水を奉り、その功績を称えて、御饗神社を定められたのが起源とされている。境内の辰の井(井戸)がその伝説の場所とされ、地元では「辰神さん」と親しまれている。団名「辰組」の由来もそこからだ。毎年、初辰の日に汲んだ水を各戸に配り、厄除けとして家の周囲に撒くのが集落の慣習。そのことにちなみ、お白石奉獻では、初辰の水を道中に撒き清めながら奉曳する。

神社港は、伊勢の海の玄関口として栄えた港町だ。江戸の万治年間(二六五八〜六二)に開港。明治期には、各地から神宮へ納められる物資が届き、船参宮客や神宮社殿の御用材も海路でこの港に入った。まちは船関係の商店、宿屋、遊郭、芝居小屋などが建ち並

び、黄金時代を迎えた。戦後、陸上交通が発達すると港は衰退したが、現在も宇治山田港として、さまざまな船が行き来している。「倭姫さんの神話が伝わる、神宮にゆかりあるまちなんですよ」と神社港辰組奉獻団・団長の中村清さん(72)。伊勢神宮百二十五社

港はさびれ、まちは少子高齢化が進むが、かつての活気を取り戻そうとさまざまな動きもある。地元有志が中心となってNPO法人みなとまち再生グループを立ち上げ、「神社港・海の駅」や往時の姿を伝えるまちかど博物館「みなとまち館」を開設。平成十年には、篠島(愛知県南知多町)でつく

## その6 一之木

いちのき

一之木町須原奉獻団

## 下町が育む職人気質が豪快エンヤ曳の源

外宮を中心に広がる山田の中心部、南北に長い一之木町。その南側は、新道商店街をはじめとする商店や飲食店が軒を連ねる繁華街だ。一方、J・R・近鉄線の踏切から北側は古くにひらけた住宅地。いずれも古参の住民が多く、町を歩けばそこかしこに下町の雰囲気

が漂う。昔、地内に大きな櫛の木があったことから一之木と呼ばれるようになった。そんな町の歴史は長く、

室町時代末の文献をみると、山田十二郷の一つとして一之木の名が見られる。お白石持行事にのぞみ、この団の特徴は、道中に練り返す練りや綱上げの意気の高さ、木遣りの勇壮さなど数々あるが、何と云ってもエンヤ曳の速さが一番に挙げられる。お木曳の際、全速力で外宮へと駆け込んだエンヤ曳は多くのギャラリを魅了した。ゆえに、

荷締めはがっちり力強く、車の飾り付けはシンプルに、が信条。荷締め結び目一つにも、職人気質を感じさせる団なのだ。「須原団は、昔、綱を練って遊ぶ時間が長く、遅れを取り戻すために何度も走ったという伝統があるんです」と団長の品川幸久さん(54)。二十年前の遷宮のお木曳では、道中五回も走ったという話もある。「昔から祭好きのやんちゃが多かったんでしょね」と品川さんは誇らしげに笑う。

昔は「大社」と呼ばれた古社だ。農業の神様・天忍穂耳命を祀るほか、境内には須原稲荷や中社(石

須原大社は、外宮前、月夜見宮と道を隔てた向かいにある。木立に囲まれた神域内には、本殿のほか中社や稲荷社が祀られている。



須原大社は、外宮前、月夜見宮と道を隔てた向かいにある。木立に囲まれた神域内には、本殿のほか中社や稲荷社が祀られている。



伊勢の中心市街地、古くからひらけた伊勢っ子にはなじみ深い町並み。



6月9日に行われた町内曳。最後はもちろんエンヤ曳も――。

長い歴史をもつ町には、気さくで意気の良い人々が今も生き生きと暮らしている。(ほ)

内宮奉獻 8月10日(土)  
外宮奉獻 8月31日(土)



## 奉獻団のわがまち自慢

### 島重の「蒸しきんつば」

ショーケースには、個性的な名の和菓子がずらり。和だけにとられず、洋の素材も取り入れた創作和菓子で存在感を示す同店。店主おすすめの「蒸しきんつば」(189円)は、栗がまるごと入り、素材の風味が生きたやさしい味わいだ。

☎0596・0658



### 御食神社

古来、この港で揚がった海産物を神宮に調進する、御饗の神を祀ってきた。地名の「神社」は御食神社のことを指している。境内には船の形をした手水舎がある。



られる干鯛(御幣鯛)を神饗として神宮へお供えするための奉納船が復活し、毎年十月に神社港へ入港するようになった。またかつての船参宮ルートが体験できる木造和船「みずき」を就航し、四〜十一月の第一・三日曜に運行。時代が変わっても、まちの歴史を特色として守り、内外に伝え続ける港町だ。(な)

## 奉獻団のわがまち自慢

### 常明寺の「秋風塚」(芭蕉句碑)

芭蕉が参宮の途次、中村枕返し(現中村町)あたりで詠んだと伝えられる句「秋の風いせの墓はらなほ凄し」が楠の化石に刻まれている。寛政10年(1798)、長峰の白寺に建てられたもので、現在は常明寺(1丁目)にある。



### おもかげの「お好み焼き」



赤い提灯が目印の下町情緒あふれる店。50年以上、家族連れや商売人、サラリーマンなど地元民に愛され続けてきた。人気は、お好み焼きのミックス(牛・豚・イカ、750円)やシーフード(チーズ入り、1000円)。外はカリッと、中はふわふわで、それぞれの具に合わせた特製ソースとの相性も絶妙。店主との会話も楽しみのひとつだ。

☎0596・28・2382

参宮客をもてなす  
名物ステーキ牛井をどうぞ

祝第62回神宮式年遷宮

外宮さんと内宮さん、二つのお宮が  
永久に光輝く地で商いをさせていただく縁より  
「二光堂」と名づけました。

伊勢内宮前  
〒516-0024  
三重県伊勢市内宮おほら町  
TEL 0596-224175  
FAX 0596-2242510

http://www.nikodo.co.jp/

第六十二回神宮式年遷宮展

会期 / 平成二十五年七月九日(火)〜九月八日(日)

御白石

神宮徴古館

〒516-0026 三重県伊勢市神田久志本町七五四-1  
☎(0596)221-1700

いせびと歳時記

夏〜初秋の伊勢志摩のまつり・イベント情報

8月

9月8日(日) 第六十二回神宮式年遷宮展「御白五」

9月16日(土) 愛洲氏顕彰祭・剣祖祭

9月17日(日) 下旬 抜種祭

9月21日(土) 御塩殿祭

9月22日(日) リメンバー赤いハンカチ(飛鳥II)

9月23日(月) 五ヶ所湾観月会(龍船会主催)

9月24日(火) 秋の神楽祭

9月25日(水) 御酒殿祭

9月26日(木) 写真展「日本人の森」

9月27日(金) 神宮観月会

9月28日(土) 安楽人形芝居

9月29日(日) 安楽神社の祭礼に奉納する神賑の人形芝居

9月30日(月) 安楽神社の祭礼に奉納する神賑の人形芝居

9月31日(火) 安楽神社の祭礼に奉納する神賑の人形芝居

9月32日(水) 安楽神社の祭礼に奉納する神賑の人形芝居

9月33日(木) 安楽神社の祭礼に奉納する神賑の人形芝居

9月34日(金) 安楽神社の祭礼に奉納する神賑の人形芝居

9月35日(土) 安楽神社の祭礼に奉納する神賑の人形芝居

9月36日(日) 安楽神社の祭礼に奉納する神賑の人形芝居



太一御用船(おんべだい祭)

9月19日(土) 神宮観月会
外宮まがたま池にある奉納舞台での典雅な月見の宴...



安楽人形芝居

9月21日(土) 御塩殿祭
神宮の全ての祭典にお供えする塩を焼き固める際の祭で、あわせて全ての塩業関係者の繁栄を祈る。

9月22日(日) リメンバー赤いハンカチ(飛鳥II)
真珠王・御木本幸吉が、海外へ行く際に赤いハンカチを振ったことにヒントを得た...

9月23日(月) 五ヶ所湾観月会(龍船会主催)
湾上の名月を愛でる観月会。船越・前田浜の堤防周辺にロウソク10000個が灯り...

9月24日(火) 秋の神楽祭
神恩に感謝を捧げ、国民の平和を願って春・秋2回行われる。内宮神苑の特設舞台で神宮舞祭が一般公開される。

9月25日(水) 御酒殿祭
神嘗祭にお供えする白酒・黒酒などの御料酒がうわしく醸成できるよう祈願し、あわせて全国の酒造業者の繁栄を祈る。

9月26日(木) 写真展「日本人の森」
常設金成26年春頃まで入場無料。9月9日(土)最終入場は16時30分まで。

9月27日(金) 神宮観月会
外宮まがたま池にある奉納舞台での典雅な月見の宴...

9月28日(土) 安楽人形芝居
安楽神社の祭礼に奉納する神賑の人形芝居...

9月29日(日) 安楽神社の祭礼に奉納する神賑の人形芝居

9月30日(月) 安楽神社の祭礼に奉納する神賑の人形芝居

9月31日(火) 安楽神社の祭礼に奉納する神賑の人形芝居

9月32日(水) 安楽神社の祭礼に奉納する神賑の人形芝居

9月33日(木) 安楽神社の祭礼に奉納する神賑の人形芝居

9月34日(金) 安楽神社の祭礼に奉納する神賑の人形芝居

9月35日(土) 安楽神社の祭礼に奉納する神賑の人形芝居

9月36日(日) 安楽神社の祭礼に奉納する神賑の人形芝居

9月37日(月) 安楽神社の祭礼に奉納する神賑の人形芝居

9月38日(火) 安楽神社の祭礼に奉納する神賑の人形芝居

9月39日(水) 安楽神社の祭礼に奉納する神賑の人形芝居

9月40日(木) 安楽神社の祭礼に奉納する神賑の人形芝居

9月41日(金) 安楽神社の祭礼に奉納する神賑の人形芝居

9月42日(土) 安楽神社の祭礼に奉納する神賑の人形芝居

9月43日(日) 安楽神社の祭礼に奉納する神賑の人形芝居

9月44日(月) 安楽神社の祭礼に奉納する神賑の人形芝居

9月45日(火) 安楽神社の祭礼に奉納する神賑の人形芝居

9月46日(水) 安楽神社の祭礼に奉納する神賑の人形芝居

9月47日(木) 安楽神社の祭礼に奉納する神賑の人形芝居

9月48日(金) 安楽神社の祭礼に奉納する神賑の人形芝居

9月49日(土) 安楽神社の祭礼に奉納する神賑の人形芝居

9月50日(日) 安楽神社の祭礼に奉納する神賑の人形芝居

9月51日(月) 安楽神社の祭礼に奉納する神賑の人形芝居

9月52日(火) 安楽神社の祭礼に奉納する神賑の人形芝居

9月53日(水) 安楽神社の祭礼に奉納する神賑の人形芝居

9月54日(木) 安楽神社の祭礼に奉納する神賑の人形芝居

9月55日(金) 安楽神社の祭礼に奉納する神賑の人形芝居

9月56日(土) 安楽神社の祭礼に奉納する神賑の人形芝居

お伊勢さんと遷宮 第62回神宮式年遷宮記念出版
A5変型判/144頁 定価1300円十税
お伊勢さんと遷宮
第62回 神宮式年遷宮
地元発ならではの!
大祭の核心を伝える記念の一冊。

伊勢・内宮前おかげ横丁に「神話の館」オープン!
遠いむかし...、神々が日本の国を生んだ神話の世界へ
今回の式年遷宮を記念して、内宮前おかげ横丁のおかげ座が全面的にリニューアル...

『伊勢のお白石持』
平成25年11月 発刊予定
秋の遷宮を前に今夏行われている「お白石持行事」。伊勢文化舎では現在、国の無形文化財にも指定されるこの民俗行事を20年後に伝えていくため、全77奉献団の取材に総力を上げて取り組んでいます...

神の杜の息づかいを感じる
写真集「神宮の森」
平成21年春より、内宮おほらい町・五十鈴蔵にて好評開催中の写真展「日本人の森」...

おかげ座「神話の館」
開館時間 10:00~16:30 (休館日なし)
約40分
入場料 大人300円 小人(小学生)100円
収容人数 約80人

伊勢からの便り
猛暑の中でのお白石持が始まりました。連日、ライター、カメラマンら十人余りのスタッフが白法被を着て交代で全団取材に当たっています...

朝の禊湯で
お伊勢参りへ。
身を清め、心を癒す温泉も一種の禊です。朝から鳥羽温泉郷の温泉(禊湯)につかり、無垢な清き心となつて、お伊勢様へお参りしましょう。

祝御遷宮
真珠婚式
鳥羽では毎月30日、真珠婚式を行っています。ご両親や知人へのプレゼントとして、代理の方からの申し込みも可能です。

鳥羽温泉郷
鳥羽市温泉振興会
TEL0599-25-3019 FAX0599-25-6358
http://www.toba-onsen.com